

活躍する同窓生

世界に響け オルガンの調べ

あおた きぬえ
青田 絹江さん (三十三回卒)

2013年12月24日、サン・ピエトロ大聖堂(バチカン市国)で行われたクリスマスミサにおいて、パイオルガン演奏の大役を務めたのが、同窓生のオルガニスト・青田絹江さんです。このミサで日本人が演奏するのは初めてのことで、現在、青田さんは東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂オルガニスト、国立音楽大学講師としての活躍に加え、国内外で演奏活動をされています。昨年11月には南相馬市民会館で復興支援コンサートも開いていただきました。

ミサでの演奏

青田さんが演奏したミサは、サン・ピエトロ大聖堂においてキリストの降誕を祝うもので、カトリック教会最大規模のもので、東京カテドラル教会オルガニストとしての実績と、イタリアでの豊富なコンサート経験で発揮された技量が評価され、ローマ教皇専属であるシステイナ礼拝堂のオルガニストからの指名で大役が舞い込んだそうです。



サン・ピエトロでのリハーサル風景

「サン・ピエトロは以前にも訪問したことがありましたが、芸術的にも霊的空間に於いても、とにかくすごく特別な場所なので、お話をいただきました。」

高校時代

青田さんの高校時代について伺いました。

「毎日学校に行くのが楽しかったですね。特に一、二年生のときがすごく楽しかったです。」

部活動については、意外な答えが返ってきました。

「美術部に所属していました。でも、合唱部の伴奏に借り出されていたので、そちらの活動のほうが多かったんです。それに加えてピアノ、エレクトーン、絵画(油絵と日本画)、茶道、華道、剣道と習い事もしていたので、美術部では原高美術部の展覧会に出品したぐらいでした。それでも美術室には毎日友だちと



指していました。長期休みに東京の美大予備校にも通っていたほどです。美術部に所属していたのも美大進学を考えていたためです。エアブラシに興味を感じたり、広告デザインナーに憧れたりしていました。」

当時の美術部顧問は朝倉悠三先生でしたが、現在も親交があるそうですからご安心ください。印象に残っている先生も朝倉先生で、

「特に何かしてもらったというわけではないですが、美術室で自由にさせてもらったことや、乗っていた車がフォルクスワーゲンで、『芸術家は違うなあ』というイメージをもっていたことが思い出に残っています。」

思い出の行事は文化祭。バンド演奏をしたそうです。それもバンド二つを掛け持ちで。そのうちのひとつは、相馬で開かれたコンクールで、メンバーそれぞれが各楽器部門の最優秀賞を獲得するほどの実力があつたそうです。

「フュージョン... 高中正義をやっていました。難しい曲が多かったんですが、楽譜なしでコピーして演奏していました。その経験が、音大入試の調音に生かされたのかもしれない。」

音大進学までの経緯

音楽大学を目指すきっかけを尋ねたところ、大変興味深いお話をいただきました。

「実は美術大学への進学を目指して

断念したの。だから私はあなを応援する」と言ってもらえました。そこから一気に入試まで。今はできないと思いますが、お昼に学校を早退して、小高の先生に指導を受けて、という日を半年続けました。私は短期集中型なので、最初から音大を目指すより良かったのかもしれない。」

「校長先生のお嬢さんに教えていただけたことになりました。そして、レッスンの初日、今からでは音大受験準備が遅すぎると指摘されて落ち込み、家に戻ってから部屋に閉じこまりました。これからどうしよう、どうしよう、と思いつつ、気晴らしにレコーダを聴いてみました。」



オルレアン(フランス)カテドラル大聖堂

オルガニスト

オルガンと言えば、幼稚園や小学校にあった足踏みオルガンを連想する人が多いと思いますが、欧米ではオルガンパイプオルガンが一般的です。ですから、オルガニストとはパイプオルガンの演奏者を意味します。

青田さんがオルガニストを目指すようになったきっかけを聞いてみました。

「受験のときはオルガンを弾きたいとは思いましたが、大学のときも留学中も、その時に目の前にあるものを勉強したい、という気持ちで取り組んできましたので、何かになりたいという大それたものは考えていませんでした。留学していた友人と話しても同



ヴェルサイユ宮殿で演奏する青田さん

フライベート

長い留学生活では、各国の料理も数多く味わったそうです。また、もともと料理が得意だったこともあり、原町のご自宅で予約制のレストランを開き、お一人で切り盛りしていた時期もあります。

「主人が(旦那さんはフランス人)作っていると聞いた人もあるみたいなんです。大学の授業がある日以外はレストランに燃えちゃってしまいました。勢いでやり始めて、予約もかなり入るようになっていまして、ストレスを感じることもありますが、ストレスを感じることもありません。『一体私の本職はなんなんだろう』と思います。震災後にはやめてしまいました。」

地元への思い

青田さんは現在、東京に住まいですが、月に二回ぐらいのペースで原町に戻られているそうです。また、復興支援コンサートの際には、仮設住宅の方や、音楽を学んでいる児童・生徒を招待してくださいました。地元に対する思いを伺いました。

「生まれ故郷ですし、両親、お友だちといった支えてくれる方々もいますし... 震災前はあたりまえにいつも会える、あたりまえにみんないる、という状況でしたけど、震災後は一ヶ月を意味するようになりまして。人生いつどうなるかわからないですし、会える時を大事にしたいです。」

「目標と云うよりは、今もこれからも、演奏会や典礼で弾く時に、感謝の気持ちは忘れません。そして作品に充分な理解をもって精一杯心を込め

「食べ物です。食べ物は添加物をなるべく摂らないようにしています。調味料も結構こだわっています。人間の体も病気も食べたもので作られてしまうと思うので、病院が嫌

「努力は自分を裏切らない」でしょうか。大学のときに先生から散々言われていたことなんですけど、ほんとにそうだ